

日本庭園の改修とコケ庭・コケ見本園「苔のパッチワーク花壇」の新設について

久保晴盛・小川恒彦

平成 27 年～ 28 年に日本庭園の茶庭の植栽変更を行い、コケ庭(写真 1)とコケ見本園「苔のパッチワーク花壇」(写真 2)を新設したので報告する。

はじめに

日本庭園および茶室は昭和 56 年度に整備が始まり、これまでアジサイやハナショウブを中心に展示の充実が図られてきた(表 1)。現在では、冬のウメに始まり、モモ、エビネ、アジサイ、ハナショウブ、ミズバショウ・ザゼンソウなど季節ごとに様々な植物を楽しむことができる場所になっている。

このたび、植物公園の新たな魅力づくりの一環として茶室周辺にコケを中心とした展示区をつくることになった。コケは日本の伝統文化となじみ深い植物であり、各地の寺院にコケ庭が存在する。しかし、これまで植物園で積極的に取り扱われたことはない。また、多品種の見本展示という点では、事例は存在せず、独自色の強い展示になることが期待された。

植栽変更の概要

(1) 植栽変更前の状況

植栽変更前の茶庭(写真 3)は、台杉を中心にドウダンツツジやアジサイなどの低木、ギボウシ、キチジョウソウやマンリョウなどの草本が混栽されていた。また、植栽変更前の前庭(写真 4)は、イヌツゲ、ヒサカキの生垣を主として、円筒形仕立てのヒイラギ、ドウダンツツジやウツギなどが植えられていた。これらの植栽は茶室周辺の植栽として、適したものであるが、混然と植えられており、ややもすると薄暗い印象を与えていた。

(2) 植栽変更の概要

植栽変更に際しては、台杉などの原植栽を活かす一部の植物を除いて、多くの植物を抜根撤去した。

その後、整地や土壌改良を行った。あわせて、景石の移動や縁石、飛び石の設置などの庭園工事も直営で行った(写真 5、6)。また、茶庭の中

央部に水琴窟を設置し、園路から音色を聴くことができるようにした(写真 7)。繁盛期にはスピーカで音を流せるように工夫している。なお、植栽したコケはオオスギゴケ(25 m²)のみ購入し、残りの種類は園内のものを中心に自生しているものを山取りした(写真 8)



写真 1 完成したコケ庭(茶庭)



写真 2 コケ見本園「苔のパッチワーク花壇」

表 1 日本庭園(茶室)周辺の整備記録・年表

昭和 56 年	4 月	ハナショウブ園の造成・植栽開始 (160 品種 640 株導入)
昭和 59 年	3 月	茶屋(和心庵)・休憩室の完工 アジサイ見本園の充実
平成元年	7 月～ 9 月	(34 品種約 250 株導入) ジャーマンアイリス園新設 (現在は休憩展望塔前に移設)
平成 9 年	6 月	アジサイ見本園の充実 (57 品種 106 株導入)
平成 20 年		アジサイ見本園植栽ゾーン変更 (約 100 品種 650 株)
平成 21 年	8 月～ 10 月	ハナショウブ園の改修 土壌改良・排水工事 植栽区画の変更・充実 (計 119 品種 602 株)
平成 25 年 ～ 26 年	7 月～ 6 月	新ハナショウブ園の造成 (59 種約 400 株導入)

測量・植栽変更計画からコケ庭・コケ見本園公開までの一連の作業スケジュールを表2に記す。

表2 コケ庭・コケ見本園の新設作業スケジュール

平成 27 年	11 月～	測量・植栽変更計画策定
	12 月	
平成 28 年	1 月～	植栽撤去・抜根
	2 月	
		景石移動
	2 月	つくばい・水琴窟設置
		さつき植栽
	2 月～	コケ植物植えつけ
	3 月	縁石・飛び石設置
	3 月	竹垣の設置 (一部業者委託)
	4 月	ツバキ (梵天白) 植栽
	6 月	苔庭・水琴窟 公開記念行事

植栽内容および今後の課題

(1) 植栽内容

植栽したコケ植物は表3の通りである。コケ庭にはウマスギゴケを全面に敷き詰め (写真1)、白梅の下にはホソバオキナゴケを円状に植栽した (写真9)。コケ見本園には、3月にあわせて14種を植栽した (写真2)。その後、チュウゴクネジグチゴケが枯れたため、6月にギンゴケ、ハリガネゴケとホソバミズゼニゴケを補植した。

(2) 灌水・遮光設備の改善

コケ見本園に散水栓とタイマー式の自動灌水

装置を設置し、1日2回20分間散水するように設定した。

現在は灌水チューブを上下2段にまわしているが、灌水にむらがあり美観も損ねているため、スプリンクラー式への変更を検討したい。また、夏場の乾燥と葉やけを防ぐため、7月に寒冷紗のべた掛けによる対策を試行した。しかし、写真10のようにカビによると思われる円状の株枯れが広がり、蒸れへの対策が必要であることが分かった。現在、取り外しが可能な屋根の設置を検討している。

(3) 長期的な維持管理の課題

コケの植栽後、メヒシバなどの雑草が一斉に発芽し、夏場は除草に追われた。コケの多くが山取りであるため、事前の除去は難しく定期的に人手をかける必要がある。また、イノシシやモグラなどの獣害対応や栽培技術の確立など多くの課題がある。コケ植物の多品種展示は他の植物園に事例がないため、栽培・展示を続ける中でノウハウを蓄積していきたい。

最後に、造成工事にご協力いただいたガイドボランティアの秦治彦氏に厚くお礼申し上げます。

表3 コケ植物植栽リスト

<i>Polytrichum commune</i> L. ex Hedw.	ウマスギゴケ (スギゴケ科)
<i>Atrichum undulatum</i> (Hedw.) P.Beauv.	タチゴケ (スギゴケ科)
<i>Dicranum japonicum</i> Mitt.	シッポゴケ (シッポゴケ科)
<i>Leucobryum juniperoideum</i> (Brid.) Müll.Hal.	ホソバオキナゴケ (シラガゴケ科)
<i>Racomitrium japonicum</i> Dozy et Molk.	エゾスナゴケ (ギボウシゴケ科)
<i>Plagiomnium acutum</i> (Lindb.) T.J.Kop.	コツボゴケ (チョウチンゴケ科)
<i>Trachycystis microphylla</i> (Dozy et Molk.) Lindb.	コバノチョウチンゴケ (チョウチンゴケ科)
<i>Bartramia pomiformis</i> Hedw.	タマゴケ (タマゴケ科)
<i>Thuidium kanedae</i> Sakurai	トヤマシノブゴケ (シノブゴケ科)
<i>Myuroclada maximowiczii</i> (Borc.) Steere et W.B.Schofield	ネズミノオゴケ (アオギヌゴケ科)
<i>Hypnum plumaeforme</i> Wilson	ハイゴケ (ハイゴケ科)
<i>Loeskeobryum cavifolium</i> (Sande Lac.) M.Fleisch. ex Broth.	フトリュウビゴケ (イワダレゴケ科)
<i>Conocephalum conicum</i> (L.) Dumort.	ジャゴケ (ジャゴケ科)
<i>Marchantia polymorpha</i> L.	ゼニゴケ (ゼニゴケ科)
公開日 (6/5) 以降に追加したコケ植物	
<i>Bryum argenteum</i> Hedw.	ギンゴケ (ハリガネゴケ科)
<i>Bryum capillare</i> Hedw.	ハリガネゴケ (ハリガネゴケ科)
<i>Pellia endiviifolia</i> (Dicks.) Dumort.	ホソバミズゼニゴケ (ミズゼニゴケ科)
公開日 (6/5) 以降に撤去したコケ植物	
<i>Didymodon vinealis</i> (Brid.) R.H.Zander	チュウゴクネジグチゴケ (センボンゴケ科)



写真3 植栽変更前の茶庭



写真7 水琴窟



写真4 植栽変更前の前庭



写真8 コケの植付



写真5 ドウダンツツジの抜根撤去



写真9 白梅とホソバオキナゴケ



写真6 景石の移動

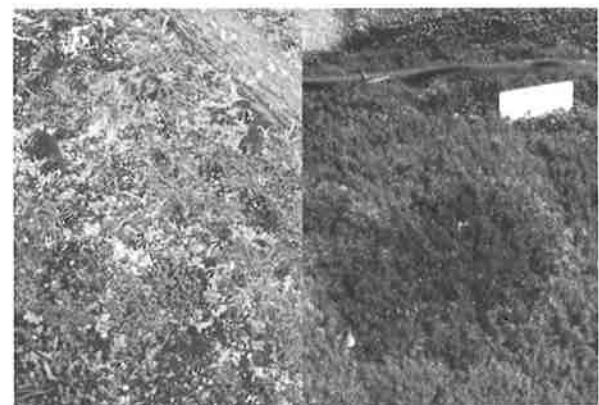


写真10 コケの管理